

「蓮如上人井波御影道中」に参加して

名土屋教区第九組 青宮寺門徒 木村隆康

毎年4月から5月にかけて門徒の方々が、

京都（東本願寺）と福井県あわら市（吉崎別院）

の間を、蓮如上人の御影のお供として歩く仏事

は知っていました。北陸地域で同様の仏事が

あるという案内が門徒会（名土屋教区第9組）

よりありました。私も以前から興味があったの

で、すぐに参加の申し込みを致しました。

後日、パンフレットを頂き、「蓮如上人井波

御下向550周年記念」と併せて、能登半島

地震、被災地の復興に微力を尽くしたいとの旨

記載されており、私も一層の力が湧いて来まし

た。その日からの毎日の散歩、歩行練習にも

力が入りました。

10月3日当日、御帰山道中、思った以上に

歩く速さに驚かされました。普段の歩行

スピードを一段、二段と上げないといつて行け

ない。正直いって、大変疲れました。でも、

道中は楽しかったです。次は参加されますか、

と聞かれれば参加したいと思えます。

道中、考えさせられることは、安全第一で、

主催者の方々、始め関係者の皆様の「ご苦労は

大変なものだろうな」と想いながら歩かせて

頂きました。

最後に、吉崎といえは蓮如上人と、もう一人

忘れてはならない方がおられます。その方は

蓮如上人のお弟子さんで、大火で壮絶な死を

遂げられました本光坊了願という方です。

私も去年、吉崎で、お墓に手を合わせて来ました。

「腹こもりの教行信証」また「血染めの

教行信証」と言われ、国宝にも指定されて

います。この血の色を忘れてはならないとして、

お経の表紙を朱色にしたといわれています。

朱色の勤行本を見るたびに「感謝」の気持ち

を忘れず読ませて頂きました。



蓮如上人井波下向記念御影道中に参加して

名土屋教区第九組 明喜寺 大野 幹夫

今回の北陸御影道中に参加するきっかけは、

毎年行われている京都と福井の「蓮如上人御影

道中」であった。この存在は、以前から知って

いたので、興味を持っていた。その内容は

リヤカーをみんなで引っ張って京都の本山から

福井まで行く程度のもの。しかし、なかなか

一人では参加する勇気もなく立ち止まっていた。

そんな中、場所は違っても同様な行事が開催

されると聞き、喜んで参加することにした。

御影道中当日、瑞泉寺でのセレモニーが済み、

いざ御出立。きれいに飾り立てられた蓮如上人

が乗車されたリヤカーの先端には、二本の

ロープ。一本のロープに15人くらいの人が

つかまり、「蓮如上人の御通り」の掛け声と

ともに、力を合わせて引く。日頃の自分の歩く

ペースよりも速く、それに合わせて歩くことは、

つらかったが、何とか最後まで歩き通すことが

できた。道中には、地元の信者さんたちが手を

合わせて我々を迎えてくださった。そこには人々の蓮如上人への現代まで続く深い信仰心を感ずることができた。

さらに、感心したことは、出発点の井波瑞泉寺や終点城端善徳寺は、とても荘厳で歴史的な価値が感じられるものであった。

今回の御影道中に参加して、北陸地方には蓮如上人の教えが今日まで脈々と受け継がれていることを感じ取ることができた。

御影道中

名古屋教区第九組 明喜寺門徒 横井直子

井波別院、瑞泉寺での報恩講参拝。

御影が箱に収められての出立式。

これからの8キロの道のりを

「蓮如上人さまのお通り〜」

「蓮如上人さまのお通り〜」

と、祈りをつなぐ旅の出発です。

秋空の下、お花で飾られたリヤカーに乗せられ

た蓮如上人さまの脇で綱を引く、尾張の国からのお伴である。

先人の声掛けに合わせて声を出すも波調が合わない！一呼吸し、思い切って声を出す。

「お通り〜」

と、息を長くしてみる。

何と最後まで息が合うのではないか。頑張れる！嬉しい！それに伴い足取りも軽くなる。これも上人さまのお導きか。沿道での手に手に供花を持ったご門徒さまのお出迎えも力に変わる。心が暖かくなる。

寺院での丁寧なご接待、お勤めを頂戴する。

ホッと一息つける思い。

ご門徒さまの思いと温かいものが通い合う。

城端別院、善徳寺への到着。お出迎えの

ご門徒さまの笑顔に安堵する。

晩秋の装いのご門徒さまに反比例しての

汗だくの我が身。ちよっと恥ずかしかった事を

思い出す。

実りの秋、実りの多い体験が疲れを

忘れさせる。感謝、感謝。

能登の地の皆様には、寒さに向かう季節、

お体ご自愛下さいませように。 合掌

蓮如上人井波御影道中御下向に同道して

サポート参加 愛知県 和田乗道

井波御影道中の企画を知ったのは、東本願寺

⇨ 吉崎御坊 御影道中 第三五〇回目に宰領を

務めておられた金尾誠一氏からでした、

金尾さんに会えることを楽しみに申し込みした

とき、事務局の吉江様から金尾さんは、

逝去されたと聞かされショックのあまり

参加を止めようと思いましたが、金尾さんの

人柄から想像すると、井波御影道中 企画立案

及び実施にあたり重要な役割を担っていた一人

ではと思ひ直し、参加することで金尾さんに

会う事ができるのでは、と思ひ 参加しました。

井波御影道中は、蓮如上人が井波地域に

ご教化に訪れて五百五十年の節目の記念仏事であると共に、昨年一月一日能登平島地方を襲った大地震によつて想像を絶する甚大な被害を受け、苦悩のどん底に落とされ、先行が見えない暗闇の状況にある寺院並びに御門徒方に、ほんの少しでも生き抜く力添え、役立てればの趣旨にご賛同して戴いた沿線地域の各御寺院様及びご参集いただいた多くのご門徒の皆さん、また沿道で雨の中お迎えいただいた方々や走行中わざわざ下車され合掌でお迎えいただいた御門徒方の姿を目にしたとき、北陸真宗門徒の心底に蓮如上人を信頼し親しみ、共に真実の教えである六字の称号「南無阿弥陀仏」を称え、お念仏を抛り処とされ生き続けている相すがたに接し、疲れた身体に力が沸き胸が熱くなるほど感動したことを印象づけられました。

最後になりますが、御帰山では、宿泊までお世話になり、多大な接待をしていただきました36ヶ寺の御寺院様に心より厚く御礼

申し上げます。

また失敗が許されない御影道中講を開催するに何日も何回も会議を重ね、一歩一歩現地を踏襲され並々ならぬご尽力をされた幸領 藤原猶真様、講師 太田浩史様、随行教導 豊富高宏様、事務局 吉江 晃様、故金尾誠一様、大変貴重な御影像をさせていただいた 西勝寺様、供奉人さん方々、また当企画に影日向となつてご協力戴いた多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

令和七年十一月五日作

合掌
有り難うございました。

まるで競歩、道中にドラマ
サポート参加 富山県 八幡正之

太田浩史講師からの お誘いがあり、御影道中に参加しました。小生が参加したのは10月3日の瑞泉寺から善徳寺まで、10月4日の善徳寺から知源寺・栖霞園までです。蓮如上人

が、井波御下向を終え本山までの御帰山の道筋を辿りながら往時の上人のご苦勞の一端を共有できたような気持ちを抱きました。特に印象に残ったことは、井波別院から城端別院までの御帰山です。行程は右手に霊峰 医王山を望み、頭を下げる稲穂の中を黙々とかつスピーディーな歩みを進めました。特に道中 中盤の旧井口村あたりからのスピードアップでは、御輿車から遅れる人も多く、ほぼ小走りの状況でなんとか付いて行けた状況でした。翌10月4日の富山新聞では、御影道中の大きな写真が掲載されその中でももっとも大股で歩いている小生の写真が紹介されていました。新聞の小見出しは「まるで競歩、道中にドラマ」でした。小生たちが経験した早足道中が記事になっていました。

御影道中



秋の風景を眺め、城端へと御影車を推する御影道中の一行
富山新聞

今回の御影道中という貴重なご法縁を
いただき感謝申し上げます。お世話いただいた
太田講師を始め道中講の皆様、お立ち寄り会所
各ご寺院、ご門徒や沿道の方々にも厚く御礼
申し上げます。合掌、南無阿弥陀仏。

結

サポート参加 富山教区

第10組 門徒会 副会長 碓井清一

井波御下向記念御影道中開催に関わられた

関係者の皆様、ご苦労さまでした。

今回、このような行事に参加させてもらい、

貴重な時間を過ごすことができました事、感謝

致します。

道のりの最初の頃は、参加者の息があわず、

蛇行しながらの運行でしたが、自然と皆さんの

呼吸が整い、気持ちの良い道中でした。初対面

の方々でしたが、蓮如上人様のおかげで、

ひとつになり、道中、声を掛けてくださる人や

お花を添えてくださる方々に、素直な気持ちで
「有難うございます」と声が出る自分に何か
不思議な気がしました。

手をあわせることの大切さ、声を出して念仏
を称えることの意義などを、門徒の一員として
改めて教えられ、何ができるのかを蓮如上人様
に考えさせられた道中でした。 合掌

これはひよつとして蓮如病!?

サポート参加 富山県 長谷川範明

太田さん、藤原さん、吉江さん、はじめ

供奉人の方々、撮影班、各スタッフの皆様、

大変お疲れ様でした。無事に終える事が出来

おめでとございます😊

私はわずか3日間のお手伝いでしたが、

ひよつとして蓮如病に犯されているのでは？

思い出す事は沢山ありますが、蓮如太鼓を

45年間打ち続けて来たのは、この1日の為

だったと言って過言では無いと感じています。

この太鼓を打ち始めた頃は、上人の別れの言葉の後に観衆の中から多くの念仏が聞かれたのでしたが、ここ30年念仏の声が途切れがちでしたが、今回は沢山の念仏の声が聞かれ、本当に嬉しく胸が熱くなりました。

又、1日と4日に綱を引かせて頂いた折、肺気腫の私が何処まで出来るか心配でしたが、皆さんのお力を借りて（特に吉江さん）

終える事が出来ました。この3日間で感じたのは、各会所、井波・城端別院の多くの参詣者、沿道の人々の姿に、本当に蓮如上人が生きて働いて下さっていると痛感しました。

5日の早朝、DVDの打合せで再度堅田本教寺を訪ねた時、これまでの事の感動の思いで、涙が溢れて仕方ありませんでした。たぶん蓮如病かも！？



蓮如上人の面影は時を超えて・・・

サポート参加 京都府 松田亜世

「蓮如さん、よう来てくださった」。

東本願寺とも縁の深い井波彫刻師の方々に担がれた蓮如上人の御影が、ゆっくりと瑞泉寺の山門をくぐるその時、涙ながらのその言葉が聞こえてきました。

蓮如上人を慕い、真宗の教えに生きる門徒の方々が手を合わせるその後姿は、一向一揆に向かう戦乱の加賀から逃れ、砺波平野に渡った数多くの民衆が、550年前に井波を去る蓮如上人を見送った姿と重なるようで、歴史を貫く蓮如上人の教化力に改めて感動するひと時でした。

私が参加させていただいたのは、瑞泉寺から善徳寺までの間。柳宗悦によって「土徳」と言い当てられた地を巡る蓮如さんとの旅でした。「蓮如上人さまのお通り」の触れ声に導かれながら、ようやく訪れた秋の風を受け、遠く五箇山から馳せ参じた赤尾の道宗が歩いたと

される「道宗道」も尾根伝いにみえます。

真宗は、まぎれもなく生活の仏教です。

生活する人々がおられるところに蓮如さんが向けられた優しい眼差しを思い浮かべます。その優しさとは、人間存在の愚かさや悲しみ、その痛みと共に在るものだったような気がします。

リヤカー引きを経験できた幸せ

サポート参加 竹治弘明 竹治由佳里

10月4日(日)井波御下向道中にかみさんと二人で、リヤカー引きを経験させて頂きました。区間は南砺市の大福寺さんから随順寺さんまでの約3kmを30分程度で駆け抜けました。歩くといよりも速足から小走りに近いもので結構汗をかきました。「蓮如上人のお通り」の掛け声を発しながら、一糸乱れぬよう引くことに心がけましたが、なかなか紅白ロープのたるみに注意を受け一所懸命でした。真剣みが

持て上人の御影を運んでいるのだと実感を
しました。

出発の大福寺の本堂は参拝者で一杯であり、
立っている方も大勢いました。ご住職も本堂が
溢れんばかりとなり本堂にうれしい、感謝で
一杯とおっしゃっていました。浄土真宗は
これだけ地元根付いていることも実感も
しました。

さて、私の家は、浄土真宗ですが実は西方
であります。かみさんの実家は曹洞宗で、東方
の催しに参加してよいものかと迷いましたが、
大福寺さんには月忌まいりに来ていただいて
おり、その繋がりから是非参加させて下さい
とお願ひし経験をさせて頂きました。

夫婦ともども 本当に
良い経験をさせて頂
きました。
有難うございました。



沢山の感動を頂いた『御影道中』

サポート参加 石川県 篠崎賢治

本教寺から東別院までのわずかな時間で
したが御影にお供させていただき有難う
ございました。

参加のきっかけは、平生お世話になって
いるお寺が『御宿』になったこと。めったに
ない『御影道中』に興味がわいたという
気持ちで一人で参加させて頂きました。

結果的に沢山の感動を頂き大変うれしく
思っております。お寄りした各お寺さん
おもてなし、御影の供奉人清水さんの『蓮如様
のおつーき』や『蓮如様のおたーち』の声に
身体の震えを感じたものでした。また、道中
御影に向かって手を合わせられる沢山の方々
になぜか胸が熱くなりました。

私自身は周りの邪魔にならないように、『早い
歩き』に一生懸命に綱にぶら下がっていた
ようです。

蓮如様の御影がご帰山されたことに安堵

するとともに、お寄りした各お寺さんそして
本行事に携わられた皆様に お礼を申し上げま
す。なむあみだぶつ

「一隅を照らす」道中に

サポート参加 石川県 竹田外喜勇

ようけい人が集まった。ホンコさんより
多いがんねえかと誰かが言った。
父ちゃん母ちゃんじいちゃんばあちゃん、
そしてもっともつと先からのご先祖さまから
ずっとずっと伝えられてきたお念仏の音が、
気が付かなかつたけれど、心の隅っこに残って
いたんねえか。これが土徳と言っやと、
誰かに教わった。

消えかかっていた法灯が、夫々の会所で一隅
を照らす明るい灯となって、再び照らしていく
道中になったのではなからうか。

私らに残された最大の仕事は、子や孫に
お念仏の姿を伝えていくことを実感させられ
た御影道中でありました。

釈智幡

蓮如上人、有難うございました。

サポート申込 大阪府 辻本隆昭

生きた蓮如上人に導かれた事を実感した御影
道中でした。

私自身、父から任職を継職し、凄まじい時代
の変化を感じる中で、浄土真宗の法義相続と
寺院の護持をどうすればいいのかと悩んで
いました。親鸞聖人の教えを再興された

蓮如上人に聞かせてもらおうしかない。そういう
思いを持っていると不思議なご縁が熟して
参加させて頂けたのです。

瑞泉寺の報恩講から始まり、吉崎別院までの
御影道中。各お立ち寄り所でののお勤めと御法話
を聞かせて頂き、御影を運ぶ歩みの中で、心の

中に湧き上がる悩みや問いかけに蓮如上人が
懇切丁寧に道中に関わる すべての人を通して
答えて下さっていたと感じました。

また、太田先生には御法話だけでなく、夜の
座談会や、おとぎの席で仏法の深さや味わいを
聞かせて頂き、共に語らせていただけたことは
無上の宝です。こんな極上の仏法を味わえる
仏事はないです。

どんなに時代が変わろうが仏法ひとつ。親鸞
聖人の教えだけやぞと蓮如上人に身をもって
教えていただけた気がしました。南無阿彌陀仏
に遇えてよかった。南無阿彌陀仏。合掌

井波御下向御影道中に参加して感じた事

サポート申込 愛知県 野間千秋

十月五日の一日のみ堅田 本教寺から松任

聖興寺まで参加しました。御影道中には過去に
4回、部分参加しております。今回は、自分の
仕事との関係で、どの区間を歩けるか、

スケジュールをにらみ合わせて決定しました。

今回、参加して、いちばん強く感じた事は、
会所や道中で地元の方々が熱心に蓮如上人を
お迎えして下さった事です。綱を引く一般
参加者は数名でしたが、会所での勤行も真剣に
勤めて下さっていただき、御影道中は法要が一番
の主題であることを再認識いたしました。例年
の御影道中では、ともすると会所をただの
休憩場所としか見ていないと感じられる
からです。

いずれにしても、また参加したいと思います。
なお、今回参加するにあたり、北陸3県2
Dayパス（3県の第二セクター）乗り放題
切符を利用しました。敦賀までは別途ですが、
二日間2800円です。北陸新幹線開業で、列車
もすいていて、快適でした。



蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中

くとも歩いてく

石川県 勸歸寺門徒 川端修

梅が熟して色づく頃、お手次のお寺の門徒研修会で高岡教区・大福寺を訪問する機会があり、住職 太田浩史師から御影道中の紹介がありました。今日まで伝わる真宗門徒の宗風（教義や独特の形式や風習）は吉崎を起点に確立されたと言っても過言ではなく「浄土真宗中興の祖である蓮如上人の御影とともに歩く者も迎える人も皆心に花を咲かせる道中になれば嬉しい」と申されました。毎年吉崎別院で4月24日から行われる御影法要（改）の参詣にはこれ迄に数回の縁（改）でありました。先祖代々、徳をいただく蓮如さまに接することが出来る有難い機会だと思ひ直ぐサポートに応募しました。暑い夏の早朝に日々1万歩を目標にウォーキングで体調を整えることに努めました。御下向・御帰山道中の会所にこれまで24カ寺に縁（改）があり、この度は稱名寺・本覚寺

勸歸寺のサポートを務めさせていただきました。

供奉人の清水教示さんの「蓮如上人さまの、

おとーりー」と高く澄んだ声に続き

「おとーりー」と発する度に、穏やかな敬いの対象になっっている蓮如上人、蓮如さんと「さん」付けで呼ばれる身近な存在であることを一層深めたように思いました。物珍し気に眺める人、知らぬ顔で通り過ぎる人、蓮如さまの御輿に拝礼する人も見受けられましたが、会所が近づくこと人々の雰囲気が変わり蓮如さまをお迎えする心が現れているように感じました。日々の道中がオープンチャットで逐一状況が伝わり、会所でお参りするご門徒の合掌する姿から蓮如さまに会える喜びがひしひしと伝わってきました。勸歸寺報恩講の法話で太田浩史師は「高齢化で教区再編も進んでいる中で、真宗土壌を掘り起こす切っ掛けでもありたい」と申されました。人生の残り時間を平均寿命などから逆算して刻一刻と減っていき、「今」なくなっても不思議でない時間を、自分を

見つめる生活をしながら 仏法に関わる尊い

縁をいただき、願われて願われて願われて

生まれ、そして願われ願われて育てられてきた

その願いをきく、ヤット一歳（八十一歳）を

超えた身で勤しむ意を固くしました。蓮如さん

を思う心が今なお深い土地柄だけに信仰の歴史

に参加できましたことに、ありがたく感謝

申し上げます。

大がかりな行事が大成で、企画推進運営

されました各位に感謝申し上げます。

ご苦勞様でした！！！！ ありがとうござい

ました。

2025・10/25

く 八十一歳ヤット一歳を超えて知ったこと

先日、のと鉄道「震災語り部 観光列車」で

穴水駅に寄りました。

穴水町沖波191に真宗大谷派正覚寺住職の姓

が「禾几」（あわき）姓であることを知りました。

愚禿親鸞から禿の一字をとり、これを二つに

愚禿親鸞から禿の一字をとり、これを二つに

分け名乗っているのが穴水・正覚寺一族のみ
と言われていたようで初耳でした。

井波御下向には、本当にたくさんの方の
ご協力をいただきました。特に今回の円成の
根本を荷っていただいた方々でございませう。

御輿車拝借 真宗大谷派（東本願寺）様
御影道中道具一式拝借 吉崎別院様
蓮如上人「鏡の寿像」拝借 西勝寺様
棟方志功版画使用許可 棟方良様
チラシ・ポスター作成 出雲路雅様

蓮如上人を賑々しくお迎えくださいました。

蓮如上人井波御下向550周年記念

井波別院 山門ライブ

「いま、蓮如上人にお会いして、

「ころのうたを聞きましょう」

主催 富山教区第四組坊守会

共催 富山教区坊守会・テラまちコネクト

出演 鈴木君代さん（馬川透さん）

井波別院・城端別院での絵解き法話

椰野 明仁さん 馬川透さん

「懇志をいただき、お名前がわかる方だけ

「紹介をさせていただきます。」

9月27日 興宗寺様 成善寺様 浄誓寺様

本善寺様 光蘭坊様 橋爪昭人様

百々海真様 栗津組様 豊富様

本善寺総代様 下口文博様 応観寺様

勝見喜巳博様 東組門徒会様 戸井幸則様

鹿野酒造様

9月28日 常念寺様 正林寺様

正林寺門徒様 長田寺様 角谷俊様

北嶋悟様 静照寺様 寶海寺様 柿原秀様

西澄子様 迎巖寺様 奥良逸様

9月29日 樋口桂子様 光専寺様 永福寺様

山野下様 照臺寺様 小松靖典様 善性寺様

9月30日 本泉寺様 小松大聖寺教区様

真敬寺前坊守 宮地久子様 広川幸人郎様

広谷 桃野洋子様 山本 森田哲夫様

南砺市新邸 溝口豊明様 和泉吉隆様

正等寺 常本哲生様 森田憲二様

且見博志様 本敬寺様 篠島様 徳光様

山崎様 小嶋様 山本 教念寺様

小山同行会 吉田豊様 川合和子様

小山同行会 前田李女様 坂本 中山正次様

片山孝志様 笠松明生様 立野様

妙敬寺坊守様 妙敬寺門徒会様 宗善寺様

10月1日 高澤ろうそく様 光徳寺様

長恩寺様 了泉寺様 正圓寺様 山田亨様

橋場様 宮窪かず子様 教了寺様

十一組同朋の会 岡部光雄様 田中隆明様

10月3日 照圓寺様 真光寺様 城端別院様

宮下光夫様

10月4日 赤池様 満行寺様 妙敬寺坊守様

高窪自治会様 小坂孝司様 善念寺様

北村升様 永藁和也様 福馬興土様

長野賢一様 水上喜義様 本敬寺門徒様

誓入寺様 天池善三様 伝長寺様

吉本勝久様 願全寺様 荒木真佐美様

横山智子様 知源寺様 明圓寺様

河尻美佳様 隨順寺様 本教寺様

福光城址栖霞園をひらく会様 芳斎末友様

10月5日 本誓寺様 本倉忠信様 光徳寺様

川野裕様 光徳寺住職様 光徳寺門徒様

法圓寺様 高井正巳様 真教寺門徒様

宮森忠利様 樋口桂様 大桑久子様

10月6日 蓮光寺様 山岡久清子様

稱名寺様 勸歸寺様 宗圓寺様 本廣寺様

本廣寺 坊守様 牧本輝雄様

10月7日 保木悦雄様 法圓寺様 妙徳寺様

願永寺様 角谷俊隆様 本廣寺様

(株) 善吾様 浄秀寺様

振込等で、「懇志をお届けくださった方です。本当に、ありがとうございました！」

大垣篤子様 小川龍太様 清水教示様

キムラ コウスケ様 ツダ マサアキ様

藤原猶真様 川島弘之様 出雲路雅様

本善寺様 榎田昭裕様 福島英子様

豊富高宏様 吉江晃様 八幡正之様

井波別院様 寺島楨子様 日野和美様

原口順子様 馬川透様 称仏寺様

イワクラ タカヒロ様 オオヤツ マリ様

山本武夫様 島田勝由様 太田浩史様

橋本斉様 妙蓮寺様 原田順子様

西谷久江様 越村崇様 柴田敏秋様

釣章子様 法輪合様 松尾正寿様 梯浄円様

松田稔様 坂井三郎様 時長昌教様

ケンリュウジホウシ様 澤村静子様

大泉寺様 富山教区同朋の会連絡協議会

高岡支部 支部長 居島 浄様



【余録】

「歩キナン 大道ヲ」計画

～ 真宗再興 さあ行こう！ ～

幸領 愛知県 藤原猶真

この度の蓮如上人井波御下向五五〇周年記念御影道中を機縁に、継続的に御影道中を結縁することを願います。

井波御下向御影道中で得た経験というものは、御影道中こそが、われらにとって真宗の生活であることを確信させるものでした。いわば御影道中は自信教人信の具体的表現であり、御影に供奉する歩みそのものが大悲の等流となつてはたらくのであります。

御影道中を結縁するには、相当程度の人との関りあい抜きには実現しません。またその趣意が人心を得ることも必要であり、ご信心が問われる仏事であります。その意味で、大いに「やりがい」のあることではないでしょうか。

さて、井波御下向道中講は、井波別院瑞泉寺と共同し、新たに御輿車を製作いたしました。それは井波御下向が新たな御輿車を産み出したということでもあります。そしてこの御輿車は十一月四日の西勝寺蓮如上人還座式ならびに奥能登お見舞い道中に実際に使用されたのです。つまり新たな御輿車は今後各地で活用いただけるものであり、新たな御影道中の立ち上がりをも期待できるものとなります。

井波御下向道中講は今後「道中講」と名のり、引き続き活動していきたいと願います。様々な御影道中を発信し、実施に向け企図していきたい。地域を限定した小規模なものから、県をまたぐような大規模なものまで、企画立案にも参画し、協同していきたいと思えます。

いつでも、どこでも、だれでも道中講と
なつて御影様に供奉しようではありませんか。
「歩キナン 大道ヲ」。動く道場、歩く真宗を展開してまいります。

道中講の歩みはここからはじまります。

